

自主企画分科会

学生だからできること

日本社会事業大学ボランティアセンター
学生スタッフ 1step

1. はじめに

本報告では、日本社会事業大学ボランティアセンター学生スタッフ 1step の自主企画について、当日の進行、企画内でのワークのまとめを記載し、本企画で得られた学びと今後の方向性について述べる。

本企画について説明する前に日本社会事業大学ボランティアセンター学生スタッフについて少し述べたい。日本社会事業大学ボランティアセンターは学生のニーズもあり、2017年4月に設立された。次年度には各ボランティアサークルの代表、元代表やボランティア活動経験者などが学生スタッフ 1step となり学内外でのボランティア活動の仲介の役割を担い、学生に向けたボランティア活動の基盤を作るために積極的に活動している。

本企画は、前述した 1step が活動の基盤を作るために企画や準備、進行を行った。学生だからできることがあるという 1step メンバーの思いから、ボランティア活動において学生だからできることについて参加者と一緒に考え、共有することと、学生がボランティア活動へ新たな一歩を踏み出すためのお手伝いをするを目的に開催された。

2. 当日の進行

当日は、日本社会事業大学在籍学生をはじめ、日本社会事業大学卒業生や他大学の学生、一般の社会人の約 20 名の方々にご参加いただいた。

初めに、1step のメンバー数名によるボランティア活動への最初の一步や活動における経験談・活動報告等を行った。その後、アイスブレイクを挟み、自己紹介を行ってもらい、参加者同士の緊張を解消し、その中で 4 つのグループに分割した。その後、各グループに 1 つずつテーマを「子ども」「高齢者」「災害支援」「地域」と振り分け、1step メンバーもグループに参加し、ファシリテーターとタイムキーパー役を務め、グループワークを行ってもらった。グループワーク内容としては、①自己紹介カードを用いた、自己紹介とボランティア活動について、②KJ法を用いて、各テーマで学生だからできることについて挙げた。そして、各グループでのワークを発表してもらい、1step と参加者全体でのワークに対しての感想や疑問等を投げかけてもらい、共有を行った。

3. 経験談・活動報告

経験談に関しては、1step メンバー数名が発表を行った。内容としては、メンバーがボランティア活動を始めるきっかけとなる出来事について、具体的にどのように活動に繋げていったのか、現在の活動としてはこんなことを行っているというように、実際の活動写真を Power Point に載せて発表していった。

4. 各グループのワーク報告

グループワークは、模造紙と付箋を使い、KJ法を用いた。ファシリテーターは、1stepメン

バーの経験に基づき、入れるところに入っても
らった。ワーク後に共有タイムとして、ファシ
リテーターを除くメンバーは、他のグループの

ワーク内容について、そのグループのファシリ
テーターから説明を受け、疑問や改善案などを述
べた。

1) 子ども分野

- ・ 1step のメンバー 2 人を含む 8 人のグループ構成

表 1 学生だからできること

	学生だからできること	他グループからの感想・疑問
自由さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加しやすい (時間がある、体力がある) ・ 大人数の参加 	
子どもから見た学生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが話しかけやすい ・ 年齢が近い、話題が共通 ・ 不登校気味の子と子ども目線で会話ができる ・ 子どもにとって兄や姉となる存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの年に近いので、その話題を共有できる強み ・ 共通の話題があるので、親しみがわく
学生の力	<ul style="list-style-type: none"> ・ フラットな気持ちで関わられる ・ 全力で遊ぶことが出来る ・ 考え方が柔軟 ・ 子どもが好きな人は、楽しめたり、元気をもらったり、将来の夢につながる ・ 子どもを理解できた 	
信頼感	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に来てくれる存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的に来てくれているボランティアが卒業後 (ボランティアが辞めた後) の子どもへのケアが必要

表 2 学生だから難しいこと

	学生だから難しいこと	他グループからの感想・疑問
責任感がない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任があまりない ・ トラブルの責任をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任のとれる範囲をしっかりと決めておく
知識不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験が浅い ・ 知識が乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学ぶ意欲はある ・ 伸びしろがある ・ 研修の機会があるといいかも (外部のものとかも)
安心感がない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心感がない ・ 周囲の人との信頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が子どもたちの中でどういった存在であるのかを、周りにアピールしておく
対応難し	<ul style="list-style-type: none"> ・ やってはダメなことをしてしまった時の対応 ・ 親の目線 ・ 踏み込みすぎでしまう ・ 男子生徒とのかかわり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何かあったときに助けを求められる人を見つけてみる

2) 高齢者分野

- ・1stepのメンバー2名を含む8名

表3 学生だからできること

	学生だからできること	他グループからの感想・疑問
孫 感	<ul style="list-style-type: none"> ・学生も元気をもらう ・高齢施設だと孫みたいに喜んでくれる ・「わからない」が許される 	<ul style="list-style-type: none"> ・孫感は学生ならではのかなと思った。でも、孫感があるからこそ、他の学生じゃない一般のボランティアよりもいろいろ言われたりすることがあるのかなと思った ・高齢者が経験したことや昔のことを教えてもらえる。 ・年代とか状況が違うからこそ難しいし、逆に学べるものがたくさんあるのだなと思った
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション、お祭りのお手伝い ・お出かけ支援 ・DSでの傾聴ボランティア ・レクリエーションの企画/運営 	/
フットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がとりやすい ・行動力がある ・人手がいるときに、人数を集められやすい 	
距 離	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒にイベントを楽しむことができる ・職員じゃないからこそ、話がしやすい 	
関 係 性	<ul style="list-style-type: none"> ・立場等を気にせずに行うことができる ・すぐにできて、辞めるのも簡単。 	

表4 学生だから難しいこと

	学生だから難しいこと	他グループからの感想・疑問
責 任	<ul style="list-style-type: none"> ・責任が取れない ・事故が起きたときの責任 	/
資 金 面	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭的余裕がない ・車が必要な時に、手間がかかる 	
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・急な時に対応が出来ない、難しい ・知識や技術不足 ・非言語コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・無知だからこそ、気軽聞いて学ぶことができるのではないのでしょうか。
関 係 性	<ul style="list-style-type: none"> ・表面的なことしかわからない ・関わられる機関が短い 	/

3) 災害分野

- ・1stepのメンバー2名を含む8名

表5 学生だからできること

	学生だからできる	他グループからの感想・疑問
時 間	<ul style="list-style-type: none"> ・身軽で動きやすい ・時間的なゆとりがあり、自由度も高い ・時間に余裕があるので、遠方へのボランティアに行ける ・長期休みにボランティアが出来る 	<div style="text-align: center;">/</div>
力	<ul style="list-style-type: none"> ・体力がある ・力仕事出来る 	
子 ども	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地で子どもたちと遊ぶ ・子どもと打ち解けやすい ・年齢が近い分、仲良くなりやすい 	
信 頼	<ul style="list-style-type: none"> ・若いから応援してもらえる 	
若 さ	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることに気軽に関れる ・若い世代の目線 ・常識に縛られない 	
繋 が り	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク ・情報収集しやすい(機器類の扱いになれている) 	

表6 学生だから難しいこと

	学生だから難しいこと	他グループからの感想・疑問
資 金 面	<ul style="list-style-type: none"> ・自己負担する資金がない(交通費・宿泊費等) ・交通手段が少ない(遠方支援が多いため) 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼しているところや団体などと連携して、金銭的援助は出来ないか。
均 衡	<ul style="list-style-type: none"> ・思いが強くなりすぎて、自身の生活リズムが保てなくなる。 ・本分(学生だから勉強)とどう両立していくか 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に目的を決めておくことで解決できるのではないか。
信 頼	<ul style="list-style-type: none"> ・中には失礼な態度の人もある ・若いから(学生だから)信用されないことがあるかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に活動することで、信用されるようになる。
繋 が り	<ul style="list-style-type: none"> ・行政とのつながりが弱い 	<div style="text-align: center;">/</div>
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・現地に行くことを親が心配する 	

4) 地域分野

- ・1step のメンバー 1 名を含む 7 名

表 7 学生だからできること

	学生だからできること	他グループからの感想・疑問
活 発	<ul style="list-style-type: none"> ・企画力がある(その地域ならではの活動を行える) ・発想力がある ・体力がある 	
若 い	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信を活発にすることが出来る。 ・今の流行が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも手に入る情報とは何か。 ・学生ボランティアだからと内輪に固執せずに、周りの声を聴こう。
知 識	<ul style="list-style-type: none"> ・社会勉強になる ・将来の役に立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を学ぶ、理解すること = ボランティア(支援)になる
交 流	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な世代の方と交流が持てる ・地域住民と交流が持てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流が出来る ・地域について知れる
短 期 集 中	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいこと(やりたいこと)だけできる。 ・学生生活のなかの時間だけで終わることが出来る。(嫌ならすぐに辞めることが出来る) ・失敗しても、そんなに責任がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限のモラルは忘れずに、でもチャレンジも大切。
学生の特権	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を呼び、一緒に考えることが出来る。 ・若いと言って、話しかけてもらえる。 ・親しみやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可愛がられる
そ の 他		<ul style="list-style-type: none"> ・大人と子どもの考え方が異なる。 ・伝統と Twitter を連携、学生の盛り上げ方 ・若者に寄りすぎても、伝統に寄りすぎてもついでいけない。

表 8 学生だから難しいこと

	学生だから難しい	他グループからの感想・疑問
活 発	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼度は低い? ・言葉遣い等が相手に伝わらない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば信用されるのか。
知 識	<ul style="list-style-type: none"> ・法律に関わることなどには介入しにくい。 ・その土地の環境についての理解が難しい。 	

5. グループワークのまとめ

本グループワークに関して、4つのテーマに振り分けて「学生だからできること」、「難しいこと」について検討してみた結果、様々な意見が挙がり、活発なグループワークとなった。

学生の立場から知識や学びを様々な方向性から見つめて、自分たち学生ができることを一人一人が試行錯誤しながら活動している。その中で、学生として活動する際にできることや難しいと思わ

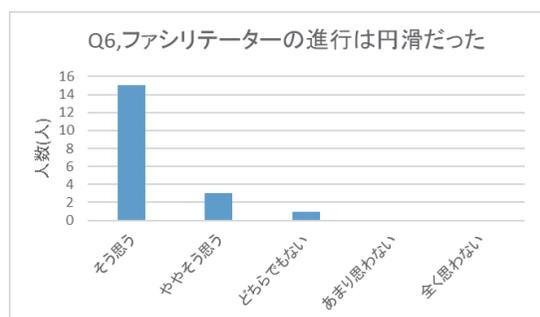
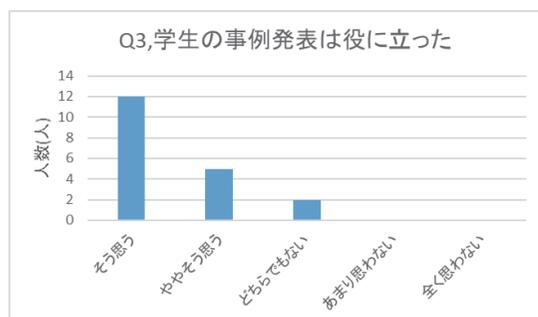
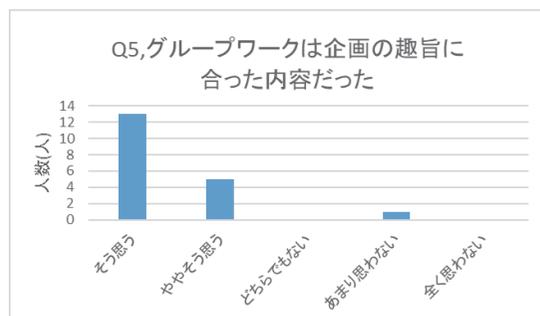
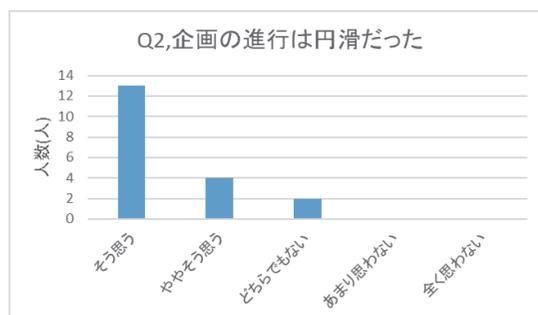
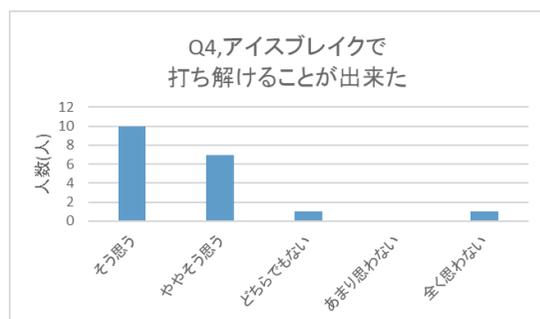
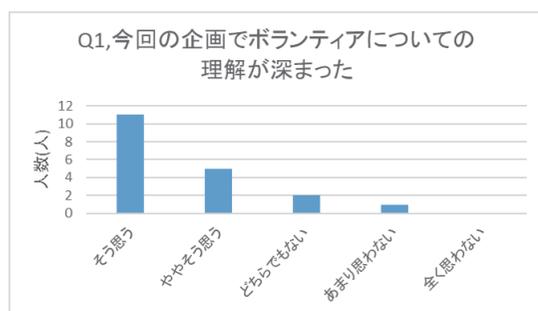
れることが発生してきていることが分かった。

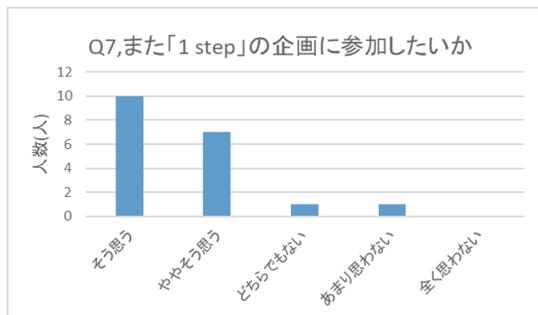
これらのグループワークの検討の中の「できること」については、それらを更に活かしながら学生自身の成長や活動に繋げていけるだろう。また、「難しいと思われること」に関して、検討された内容は学生として活動していく中で、少なからずぶつかる壁になっている。しかし、挙げられた意見に対しての感想や疑問を見てみると、工夫しても良い点や難しいからこそ考えていく必要がある

というような投げかけの言葉があった。これは、学生に限らないことではあるが、ボランティア活動をしていく中で、課題に対し、一人ひとりができるように工夫したら改善していけるのかを常に考えていく必要があるということだ。

6. 参加者アンケート集計

・1stepと日本社会事業大学ボランティアセンターのボランティアコーディネーターを除いた参加人数は24名（うち、アンケート回収人数19名）





7. おわりに

ここでは、本企画へ寄せられた参加者の声と今後の1stepの課題について記載する。参加者の声は、「ボランティアについて改めて考えることが出来た。今まで知らなかったボランティアについて知ることが出来た」「参加型の企画で、経験ある先輩や社会人の方々の体験してきたことや、活動の仕方を聞くことができて良かった」「いろいろな人と関わって様々な視点ではなしができた」などの感想があり、参加者と一緒に考え、学生のボランティアについて共有するという本企画で掲げた目標を1つ達成することが出来たのではないかと考えている。一方で、「学生ボランティアだからできることは整理されたけど、参加者がボランティアをするきっかけになったかは疑問」といった声や、グループワークのテーマや分類についての改善案などの声もあった。今後の展望としては、今回の学びを踏まえて、どのようにしたら学生が一步を踏み出せるのかを1stepの課題の一つとし、また、他大学、多世代交流の点も企画等に盛り込みながら、1stepの活動を行っていきたい。

最後に、本企画にご参加、ご協力いただいた方々に深く御礼申し上げます。 文責：1step 北藤